

感謝状

神奈川大学 産学連携事業

「本の架け橋プロジェクト」 様

テミル村第一番ケリムガジエフ学校へ本の寄付をしていただきありがとうございました。本学校は日本文化に大いに興味があり、学校からの要請により、現在生徒達に日本語・日本舞踊・日本の歌などを教えています。寄付していただいた本について、校長をはじめ、先生方がとても喜んでおり、今後教育現場で活用していくとの事です。また、日本文化を学んでいる生徒達も、本を読んで更に日本について知りたい、また日本語能力を高めたいと意気込んでいます。

今後も、これらの本はテミル村第一番ケリムガジエフ学校と日本をつなぐ架け橋となり続けることと思います。

本当にありがとうございました。

2012年11月17日

JICA キルギス事務所 青年海外協力隊

КЫРГЫЗ РЕСПУБЛИКАСЫ
БИЛДИРУУЛУУЛА
МАДАНИЯТ МИНИСТЕРИСТИГИ
ЫСЫККОЛ ОЛУУСТУ
ЫСЫККОЛ ОДАСЫНУ
ЭРГИЧЕСКИЙ КЕРНІМГАЗИЕВ
ДАГЫ ТЕМИР 1
АРТО МЕКТЕБИ

ИКН 00110200310298

1. Ортадордук 2002

№ 42
С.ТЕМИР

Ыраазычылык каты

Биздин сизге ыраазычылык катын жазганыбыздын себеби, Э.Керимгазиев мектебине

алып келген китептер абдан пайдалуу, бизге чон жардам берди. Биз сиздер менен жакындан иштегибиз келет. Сиздердин ишиниздерге чон-чон ийгиликтерди каалайбыз.

テミル村第一番

ケリムガジエフ学校

校長

感謝状

神奈川大学 産学連携事業

「本の架け橋プロジェクト」 御中

ケリムガジエフ学校へ図書の寄付を賜り、私達の学校教育へ多大なる貢献を戴きました。ここに深く感謝の意を表します。

寄付していただいた図書は、生徒達にとってとても有益なものです。私達は今後も皆様との末永い交流を願っています。

今後の更なる御活躍をお祈り申し上げます。

校長



キルギス共和国



Kyrgyz Republic



面積

19万9,900km²

(日本の約2分の1)

人口

560万人

(2010年、国連人口基金)

首都

ビシュケク

言語

キルギス語（国語）

ロシア語（公用語）

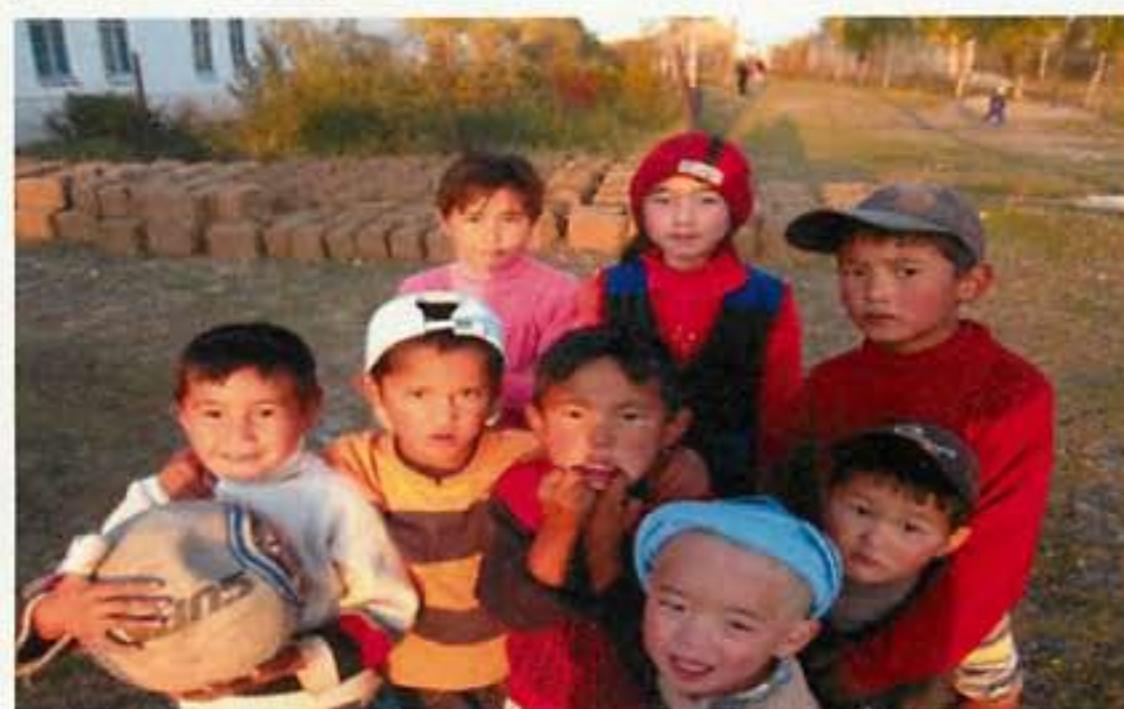
【キルギスの生活】

〈人柄〉

外見は日本人と瓜二つ。若干気が短いところもあるが、とても親日家で、まるで家族のように接してくれる。すぐに家に招き入れ、紅茶とパンを出してくれる。

国旗

中央に輝く太陽と、キルギス人の移動式住居「ボズユイ」の天井を象っています。太陽が放つ40条の光は、国民を構成する代表的な40の部族を表わしています。



キルギスの村の子供たち。夕方に学校から帰ってくると、そのまま家の前で男女学年関係なくみんなで仲良く遊ぶ。

〈食事〉



キルギスの「おふくろの味」。「ナン」と呼ばれるパンで、お店でも貰えるが、村では家で作るのが一般的。

小麦と羊肉がよく食べられる。キルギスの冬はとても寒いため野菜もたくさんは育たないが、その反面、じゃがいもやニンジンなど冬野菜は抜群においしい。

〈お金〉

1キログラム(KGS)≈1.7円(2012年2月現在)。以前は紙幣のみが出回っていたが最近はコインも製造されている。物価は日本の約半分。パンが約25円、お皿は250円ほどあれば、おなか一杯食べられる。



標高約4000mにある湖。世界でも屈指の透明度を誇る。夏になると、湖の周りでキャンプをしたり、家畜たちに草を与えるため、多くの牛や羊などの鳴き声でにぎやかになる。時に野生のヤクが見られることもある。



キルギスでは移動手段として馬に乗ったり、お祝い事などで馬の肉も食す。馬を使ったスポーツもたくさんある。

〈現地の人人がイメージする日本〉

典型的な日本人像が残っていて、侍や車、生魚を食べる民族というイメージがすぐ出てくる。また富士山も有名。

〈街で見かける日本のもの〉

首都で日本の車を見かけたり、バザーなどで日本のアニメのキャラクター商品を見かけることがある。また値段は高いが、寿司バーなどもあり日本を感じられる。

〈日本との意外なつながり〉

キルギス人にも生まれた時にはお尻に蒙古斑がある。もともと我々は兄弟で、魚好きの兄が日本へ渡り肉好きの弟がキルギスへ渡ったと言われている。

〈おどろきエピソード〉

男性が女性を半ば強引に車で連れ去り、そのまま結婚してしまう「嫁泥棒」という習慣がある。信じられない話だが、本来は遊牧民族であった彼らの、血を濃くしないための習慣であり、今でも行われている。